第６学年　道徳学習指導案

指導者　Ｔ１　新川　靖
Ｔ２　平川紀美

１　日　時　　平成１８年９月２９日（金）　第５校時
２　学　年　　第６学年　２７名
３　主題名　　命の大切さを伝える　３－（２）
４　資料名　　「命を伝える動物園」　　（「命のメッセージ」小菅正夫，竹書房より　自作資料）
５　主題設定の理由

○　生命尊重３－（２）は生命がかけがえのないものであることを知り，自他の生命を尊重する内容項目である。主に「第１学年及び第２学年」の３－（２）生命の大切さを自覚できる段階から「第３学年及び第４学年」の３－（２）に発展し「第５学年及び第６学年」の３－（２）生命に対する畏敬の念を育てる段階に発展している。「命」とは自然すべてを表す言葉である。命は互いに連鎖しており，命は命を育て，命を支えている。その命のつながりの中でわれわれ人間もまた毎日を過ごしている。命を感じる場面は，普段の生活の中でたくさんあるがわれわれ自身が命を感じる目を持っていないとその場面を生かすことができない。特に人の生死が病院で行われる現代社会において，子どもたちにそういった命を見つめる目を持たせることは大切である。まわりにある命を見つめる目を育てることは，自分自身を見つめる目を育てることにつながる。命を尊重する心を育てることを，命を見つめる目を育てることと捉えていくことは，他の価値項目にも広がる大切な視点であると考える。

○　本資料は，動物園を舞台にした資料である。主人公はこの動物園の園長小菅正夫さんである。この動物園，旭山動物園は近年，入場者数日本一を達成し注目されている。その秘密は，動物のありのままの姿，飼育員しか知らない姿を見せるための工夫を凝らしているからである。そして，このことはテレビや書物等多くのマスメディアで紹介されている。「楽しい動物園」として認知されている旭山動物園であるが，園長はその動物園を「命を伝える動物園」と考えている。命のすばらしさを感じさせるのがこの動物園の役割だと考えているのである。命の誕生，成長，躍動だけでなく「命の終わり」までをしっかりと入園者に見せ，「命」を感じさせることが大切だというのである。この園では，けがをした動物や死を間近に控えて弱っていく動物でさえも，展示場へ向かう限りその動物が入園者の目に触れるようにしている。この「命のすべてを感じてもらいたい」という園長の願いや考え方を知らせることで，児童の命を見つめる目を育てていくことができると考える。

○　本学級の児童は，１学期に道徳学習プログラム「命ってやっぱりすばらしい！」に取り組んできた。その中では植物の根っこを掘って草のたくましさを感じたり，自分の命の長さ（１０年間）をテープに表して人類誕生までさかのぼって命がつながってきたその時間の長さを感じたりしてきている。道徳の時間では自分の誕生や死について考えてきた。これまでの学習を通して，児童は「生き物の命を大切にしよう」と考えたり，「一つしかない自分の命を大切にしたい」と考えたりするなど，命のたくましさや命のかけがえのなさを感じている。これからの学習では，自分の命を大切にしていくためによりよい生き方・夢を見つけさせていく。今回の資料に出てくる園長などは，「命を大切にした生き方」として，児童にとってはいいお手本となるといえるであろう。

○　指導にあたっては，まず，旭山動物園の魅力について考えさせたい。その中で児童に生き生きとしている動物たちの様子を見せ，元気な命のもつ魅力によって多くの人々がやってくることを感じさせたい。その後，他の動物園では通常行わない，年をとって弱ったり交通事故にあってけがをしたりした生き物が展示されていることを紹介する。その理由を考えさせることで小菅園長の持つ命を見つめる目を感じさせることができると考える。そして，最後にこの動物園に名前をつけさせる。この活動によって児童がこの学習で何を感じたか振り返ることができるからである。

展開後半では，小菅さんについての感想を書かせる。自分の持っていた命を見つめる目と小菅さんのものとを比べさせて書くようにしたい。その結果，命を伝える動物園を作り上げようと努力してきた園長さんへの憧れや畏敬の念を持つであろうと考える。この心情を道徳学習プログラムの中の素敵な生き方見つけにつなげていきたいと考えている。

6　研究主題とのかかわりと授業のポイント

命を大切にする心を持ち，生き方を創る子どもの育成

～人や自然とのかかわりを大切にした道徳学習プログラムを通して～

⇩

感動と充実感のある授業づくり

☆ ①児童の心に響く教材の精選，開発をする。
　・自作資料の作成
☆ ②学習のまとめの工夫
　・動物園に名前をつけることで一時間の学習のふりかえりをする。

7　本時のねらい

命を伝える動物園をつくった旭山動物園小菅園長の生き方を通して，命の真実を見つめ大切にしていこうとする心情を育てる。

8　準備物　　スクリーン，プロジェクタ，ワークシート

9　学習指導過程

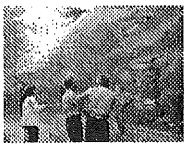
段階	学習活動	主な発問（○，◎） 予想される児童の心の動き	指導上の留意点（☆） 評価の観点（★）	T・Tの動き
導入2分	1　本時の学習に向けての意識を高める。	**○動物園は，どんなところですか。**	☆自由に意見を出させ，雰囲気づくりをするとともに，本時への方向づけをする。	T①発問指名をする。 T②共感的な受けとめをする。
展開前半30分	2 資料を聞いて話し合う。	園長さんたちの様子を紹介する。 **○この動物園を見てどう思いますか。** ・楽しそう ・行って見たい。 ・動物が生き生きしている。 ・行った人がうれしそうな顔をしている。 **○こんな風な仕掛けや工夫をした動物園を作ろうとしたのはなぜだろう。** ・日本一の動物園を作りたい。 ・みんなに喜んでもらいたい。 ・動物の本当の姿を見てもらいたい。 ・今いる動物に精一杯生きてもらいたい。	☆映像をみせて旭山動物園の動物が生き生きしている様子を感じさせる。 ☆最後に園長がどのような思いだったのかを確認する。	T①ビデオの紹介 T②ビデオの操作。 T①発問 T②板書 T①発問 T②板書

		◎どうして，楽しい動物園なのに園長さんたちは，もう長くは生きることのできない動物やけがで傷ついた動物をお客さんの前に出すのだろう。 ・ ありのままの姿を見せたいから。 ・ それもまた動物園の仕事だから。 ・ 動物園にいる生き物だから死ぬまで見せたい。 ・ みんなに悲しんでほしい。 ・ 死ぬところまでしっかり見せないと命が伝わらないから。	☆Ｔ２が問題提起をする形で紹介する。ワークシートを書く時間をしっかりととり考えさせる。 ★園長の考える命について思いをはせることができていたか。	T②動物園に元気でない生き物も展示していることを知らせる。 T①発問，板書 T②小菅園長の願いを知らせる。
展開後半１０分	３　園長さんの生き方について考え学習のふりかえりをする。	**○この動物園を中心となって作った小菅園長さんのことをみんなはどう思いますか。** ・命を大切にしている。 ・一生懸命動物たちのことを考えている。 ・こんな動物園をつくることができるなんてすごいな。	☆命の大切さを伝えようとしている小菅園長の生き方に共感させて考えさせるようにする。 ☆プログラムの学習の方向について知らせる。	T①発問・机間指導 T②机間指導 T①次時の予告
終末３分	４　動物園の名前をつけて発表する。	**○この動物園にどんな名前を付けますか。** ・命の動物園 ・たくさんの命が生きる動物園 ・命を伝える動物園	☆１時間の価値をふりかえることができるような題を中心に指名していく。	T②発問

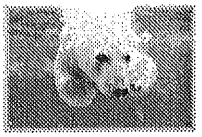
１０　板書計画

○こんな風な仕掛けや工夫をした動物園を作ろうとしたのはなぜだろう。

日本一の動物園を作りたい。
みんなに喜んでもらいたい。
動物の本当の姿を見てもらいたい。
今いる動物に精一杯生きてもらいたい。



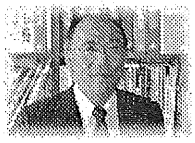
旭山動物園



楽しい
生き生きしている
行ってみたい

◎どうして，楽しい動物園なのにもう長くは生きることのできない動物やけがで傷ついた動物をお客さんの前に出すのだろう。

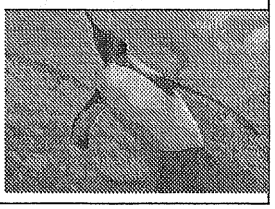
ありのままの姿を見せたいから
それもまた動物園の仕事だから。
動物園にいる生き物だから死ぬまで見せたい。
みんなに悲しんでほしい。
死ぬところまでしっかり見せないと命が伝わらないから。



小菅園長

命を大切にしている
動物たちのことを考えている。
こんな動物園をつくるなんてすごいな。

道徳プリント（　　）



生き方から学ぼう